

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年7月3日(2008.7.3)

【公表番号】特表2004-504436(P2004-504436A)

【公表日】平成16年2月12日(2004.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2004-006

【出願番号】特願2002-512296(P2002-512296)

【国際特許分類】

C 0 8 G 59/18 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

H 0 1 B 3/40 (2006.01)

H 0 1 B 17/60 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/18

C 0 8 J 5/00 C F C

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/00

C 0 8 L 63/00 Z

C 0 8 L 83/04

H 0 1 B 3/40 N

H 0 1 B 17/60 J

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月14日(2008.5.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

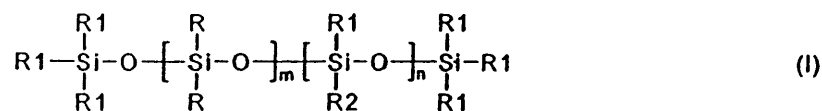
【補正対象項目名】請求項18

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項18】成分(b)が一般式(I)

【化1】



[式中、Rは互いに無関係に炭素原子数1～8の場合によっては塩素化されたおよび/またはフッ素化された直鎖状、分岐したまたは環状のアルキル基、(C₁～C₄)-アルキル-アリアル基またはアリアル基であり；好ましくは炭素原子数1～4の場合によってはフッ素化されたアルキル基またはフェニル基；特に好ましくはフェニル、3,3,3-トリフルオロプロピル、モノフルオロメチル、ジフルオロメチルまたは炭素原子数1～4のアルキル、なかでもメチルであり、

R₁は互いに無関係にRまたはR₂の意味を有し、その際に異なるSi原子に結合する2つの末端置換基R₁が場合によっては一緒に一つの酸素原子であってもよく(=環状化合物)；

R₂はRの意味かまたは残基-(A)_r-(反応性基)であり、その際に-(A)_r-(反応性基)は請求項15または16に記載した意味を有し；

mは平均して0～5000、好ましくは20～5000、特に好ましくは50～1500であり；

nは平均して0～100、好ましくは2～100、特に好ましくは2～20である。]で表される化合物あるいは化合物混合物を意味し、その際に(i)式(I)の化合物は分子当たり少なくとも2つの反応性基を有し、(ii)m+nの合計は非環状化合物では少なくとも20、好ましくは少なくとも50でありそして(iii)基-[Si(R)(R)O]-および-[Si(R₁)(R₂)O]-は分子中に任意の順序で配置されている、請求項1～17いずれか一つに記載の注型用材料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

出発物質として使用する場合によっては反応性基を持つ三次元架橋可能なポリオルガノシロキサンを場合によっては他の助剤と一緒に好ましくは20～100の温度で外部相中に分散させそしてこの分散相を、分散した粒子/液滴の粒度が0.02～50μmの範囲内にある様に分散させ、次いでこの分散相の成分を網状化させて固体粒子を生じさせて行うのが有利である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

非常に沢山の架橋反応がシリコン化合物の分野で知られている。このことは既に開示されており、当業者に知られている。例えばビニルシロキサンは適当な触媒、例えばPt-触媒の存在下に付加反応によって水素化シラン化合物で架橋し得る。しかしながらシランもアルコキシシランによって縮合架橋することもできるしまたは他の化合物、例えばテトラブチルチタナートまたは錫(II)オクトエートを使用することもできる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

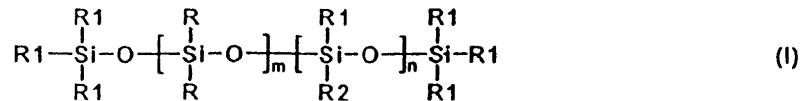
【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

【化3】



[式中、Rは互いに無関係に炭素原子数1～8の場合によっては塩素化されたおよび/または弗素化された直鎖状、分岐したまたは環状のアルキル基、(C₁～C₄)-アルキル-アール基またはアール基であり；好ましくは炭素原子数1～4の場合によってはフッ素化されたアルキル基またはフェニル基；特に好ましくはフェニル、3,3,3-トリフルオロプロピル、モノフルオロメチル、ジフルオロメチルまたは炭素原子数1～4のアルキル、なかでもメチルであり、

R₁は互いに無関係にRまたはR₂の意味を有し、その際に異なるSi原子に結合する2つの末端置換基R₁が場合によっては一緒に一つの酸素原子であってもよく(=環状化合物)；

R₂はRの意味かまたは残基-(A)_r-(反応性基)であり、その際に-(A)_r-

(反応性基)は前記の意味を有し;

mは平均して0~5000、好ましくは20~5000、特に好ましくは50~1500であり;

nは平均して0~100、好ましくは2~100、特に好ましくは2~20である。]で表される化合物あるいは化合物混合物であるのが好ましく、その際に(i)式(I)の化合物は分子当たり少なくとも2つの反応性基を有し、(ii)m+nの合計は非環状化合物では少なくとも20、好ましくは少なくとも50でありそして(iii)基-[Si(R)(R)O]-および-[Si(R₁)(R₂)O]-は分子中に任意に配置されている。非環状化合物でのm+nの合計は好ましくは平均して20~10000、特に50~1500の範囲内にある。